

追手門学院大学

校友会会報



第64号

平成20年(2008年)3月19日

発行者 〒567-8502

茨木市西安威 2-1-15

追手門学院大学校友会

会長 平野 昌雄

電話 072-643-6135

FAX 072-643-6099

©2007 編集責任 蟻 柴 潤一

将軍山会館に決定！！

かねてより計画・建設中の念願の「校友会館」の正式名称が「将軍山会館」と、このほど決定しました。

昨年十月より着工しました校友会館(仮称)は、名称が「将軍山会館」に決定しました。「将軍山」とは、キャンパスの南端(現・追手門学院中学高等学校グラウンドの南)に、緑豊かな小高い丘の中に藤原鎌足公の古墳があり、昔から「将軍山」と呼ばれてきました。

本会もこの呼び名にちなんで「追手門学院大学同窓会将軍山会」としていましたが、その後、名称を「追手門学院大学校友会」と改め、「将軍山会」の愛称は通称とすることになりました。多くの卒業生のみなさまに親しく、また古くからの会員のみなさまには懐かしく「会館」に訪れていただきたく、「将軍山会館」と名付けられました。

建設の状況につきまして、六月二十八日の竣工を目指し、順調に進んでおります。現在は最上部までのコンクリート打設が終わり、内部設備の施工が進んでおります。仮囲いがとれて、建物の全容が見えてくるのが、ゴールデンウィークの頃となっております。



H・Cデー今年も学祭中に開催

さる、二〇〇七年十月二十八日に恒例のホームカミング・デーが開催された。

当日は天候に恵まれ、四八〇名を超す校友が集い、昨年に続くOBのライブステージがあり、同期や、学年を超えての交誼の輪が広がり、話に華を咲かせた。

今年、学内は大きく変わります。年に一度の開催ですが、本年も母校に足をお運びいただき、変貌を遂げる母校をその眼でご確認いただければと思っております。



オープンキャンパス 開催予定

今年も開催されるオープンキャンパスの日程が、次のとおり決まりました。リニューアルしたキャンパスにぜひご来校下さい。

六月二十二日(火)
七月二十日(火)
八月二日(土)
八月三十日(土)
九月二十一日(日)
十月十二日(日)

*時間などの詳細はホームページまたは電話で確認して下さい。

なお、十月十二日は入試直前相談会です。

訃報

「英語の樋口」こと樋口靖先生が、昨十九年十二月十二日に永眠されました。

ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

合掌

【四面関連あり】

社会学部長就任のご挨拶

社会学部長 平木 宏児



卒業生の皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお伺い申し上げます。

皆様方ご承知の通り、本学は一九六六年に開学、昨年大学創立四〇周年を迎えました。その間、学生はもとより卒業生の皆様のお力添えがあつての追手門学院大学と認識しています。

また、本年は学院創立一〇〇周年の年になります。十一月七日(金)には学院一堂に会しての記念式典を計画しておりますので、卒業生皆様のご参加をお待ちいたしております。

卒業生総数も約四万名となり開学当初からお世話になつている私としては感無量で、近年は大学祭中のホームカミング・デーで一人一人の方にお目にかかれるのも楽しみの一つです。大学では現在、二号館横に「将軍山会館」が建築中ですが、この建物が完成しま

したら卒業生の皆様もつと来学していただけるものと期待しています。

年月の経つのは早いもので、将軍山会館の起工式の際、一期生のある方より、「一期生の我々は来年還暦になる」と聞かされ、大学が永年の歴史を刻んできたのだと改めて思い知らされますと共に、大学と校友会がまた新しい歴史を築いていくことに力を注ぎたいと思います。



ホームカミング・デー展示



将軍山会館展示室(イメージ図)



追手門学院の「思い出」が

眠っていませんか?

追手門学院は今年、創立一〇〇周年を迎えます。学院では、学校史整備委員会が発足し、これを機に新たな学院史資料を内外に渡って収集しております。その為に、卒業生および旧教職員の方々に広く呼びかけを行っております。特に、大学の将軍山会

館では追大や学院の歴史展示室が設けられます。

皆様のご家庭で眠っている学院に関する史資料がございましたらご協力をお願いいたします。また、順次各学校園におきまして展示スペースが設けられます。

・ 収集する史資料(幼稚園、小学校、中等学校、大手前中等学校、大学に関する物)教科書、配布プリント、ノート、クラブ活動記録、受験票、合格通知、制服、クラブのユニホーム、指定体操服、ゼミ・修学旅行等の写真等

ご寄贈・ご貸与いただける資料は、歴史を物語る大切な史資料として未永く保存展示させていただきます。また、皆様のなかには、二代、三代にわたり追手門学院に在籍いただいた方 父母の代、祖父母の代、ご親戚の方々も多数おられると思います。関係者がおられましたらお声をかけていただければ幸いです。

問い合わせ先

学校法人 追手門学院
学院長室(宮本)

〒五六七-〇〇〇八
大阪府茨木市西安威二一
一十五

電話

〇七二-六四一-七四四〇

同窓のつどい

心理学科同窓会報告

昨年度から、ホームカミング・デーにあわせて、心理学科独自の同窓会の集まりを始めております。本年度も、昨年度同様の形式で二〇〇七年十月二十八日に、全学でのホームカミング・デーの催しの後、開学当初からの二号館の教室に卒業生にご参集いただきました。井上知子学部長のあいさつに引き続き、出席教員の自己紹介と近況報告、卒業生の近況報告をおこなっております。また、小花和名誉教授を交えての懇談に、旧交を温めることができました。今回は、二期生で連絡のついた方々がグループで参加してくださいました。丁度、一号館取り壊しの時期に重なり、キャンパスの変貌ぶりに、参加者も時の流れを改めて感じておられたようです。

参加卒業生も四十名以上に増え、学科ではさらに連絡網を整備していきたいと考えております。また、教員の入替わりも多くなり、初期の卒業生に対応できる教員も減り始めておりますから、今のうちに同窓会としての体制を整える必要があると痛感しております。校友会館の建設も一つの契機になると考えられますから、学科としてさらに努力していきたいと考えます。開学以来の卒業生も多数のぼり、多くの方々が社会の諸分野で活躍されております。このことが即ち学科の存在意義の具体的あらわれであるといえるでしょう。在学生やこれからの入学生のためにも、同窓会活動をさらに発展させていく必要があります。



心理学科



社会学科

社会学科同窓会報告

二〇〇七年十月二十八日(日) ホームカミング・デーの日に、第二回総会が開催され、還暦を迎えた一期生をはじめ、総勢五十六名の卒業生が母校に集いました。昨年同様、食堂棟三階のスタッフルームにおいて、ホームカミング・デーのパティー終了後、午後一時半より総会が開かれ、昨年の事業報告と決算および、二〇〇七年度の事業計画と予算が承認されました。

総会の後、ご多用の中をご参加くださった、中嶋昌彌(元社会学部教授)、平木宏児(元社会部長)、矢谷慈國(教授)、吉田正教授(ソキウス会親)から挨拶をいただき、現在の大卒の様子などを聞かせていただきました。そして、久しぶりに母校へ戻られた杉本一郎先生から、ご自身の近況のお話と心温まるメッセージを頂戴

しました。

続いて、矢谷先生に『私にとつて、社会学は、どんな学問か』と題するミニ講義をしていただきました。一期生から、マスコミにざわしている伊勢の銘菓『赤福』や、ボクシングの『亀田親子』に対する社会学的考察の質問が出るなどして盛り上がり、卒業生に、懐かしい社会学科教室の雰囲気味わう時間を与えてくださいました。

終了後、それぞれのゼミに分かれて二次会が開催され、時の経つのを忘れて、遅くまで語り合われました。今年ご参加いただけなかった社会学科卒業生の皆さん、来年の総会には是非ご参加ください。

ソキウス会員の皆さんには、二〇〇八年度「さかさま大学」の実施要項他、母校の記事を載せたソキウスニュースVol.6が、二月中旬に発行されています。

また、日々発信しているソキウスブログもぜひご覧下さい。

http://space.geocities.yahoo.co.jp/gl/socius_ogu2006

樋口靖先生の死を惜しむ



平成十九年十二月十二日に惜しまれつつ永眠された。樋口先生との出会いは、私が大学に入學した昭和四十六年の四月のことでした。授業は「英語ⅠA」で、先生は大変若くて、お兄さんのようにクラスのみんなから慕われておられました。当時から先生の発音は綺麗で、さすがに大学の先生だと痛烈に思ったことを今でも思い出します。また、熱血先生で、夏休みなどには有志を集めて補習をして、集中的に英語を勉強させていただきました。大変感謝しております。

縁があつて、母校に勤めさせていただいた最初の部署が交換留学生制度の担当部署でした関係で、先生とはよく留学生と私とで、松下電器産業等の会社と一緒に訪問させていただきました。その時には、よく説明をさせられました。手振りで、汗をかきながら行ったことが懐かしい思い出の一コマとなっています。

先生は、追手門学院大学の生え抜きの教員として信望が厚く、大学運営・教育研究の各分野で幅広く活躍され、要職を歴任されました。昭和六十三年四月には学生部長、大学評議員に、平成五年十一月には教育研究所長に就任されました。その後、平成九年四月には文学部長・学校法人追手門学院理事に就任し、大学行政・法人運営にも尽力されました。平成十五年五月には、学院長室長に就任し、学院の教学支援と広報活動の指針を明示されました。また、課外活動においても、空手道部、少林寺拳法部の顧問に就任し、長きにわたって指導をされておられました。

お人柄もあり、葬儀には卒業生達が弔問に訪れてくれました。最後まで、先生の人望の厚さを痛感させられました。

先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。 合掌

吉田浩幸(第六期生)

活躍する校友(4)

株式会社フジオフードシステム

代表取締役社長 藤尾

正弘(第八期生)



私は大衆というカテゴリーの中で外食産業を営んでおります。その中で社員やパートナード(我々はパートナーバイトの方々を経営に参画していただくという思いを込めてパートナーと呼んでおります)に常に説いていることがあります。それは「何のために食べるのか?」そして「なぜ働くのか?」「なぜ生きるのか?」「なぜ生きているのか?」という問いも又同じだと思っています。誰かの役にたち喜んでいただく、そこに働く価値、活きる意義があるのだと思います。

去年も三万人以上もの人が自ら命を絶しました。この数値は一九九八年から続いているとのことです。思い起こせば貧しかったかもしませんが、励まし合って、かばいあい、生きていた時代は今から比べればごく小数だった。そして、その時代は、人の温もり、人の振れ合いがあつたからこそ生きてこれたのだと思います。そんな中、これから一店舗一店舗手作りで、人の温もり、人の触れ合いを大切に店作りを行っていきたいと思います。

私が考えるビジネスのゴールはたくさんの人に喜んでいただき、たくさんの人に役立つことです。大衆というカテゴリーの中で、日本一の温かい、お店を作り出して、店舗数、売上高は、もちろん、人に対する思いやりも日本一になることです。それが、私のゴールです。

企業の価値は「存続と成長」にあると言われます。その為には理念の共有が大切になると思っております。追手門学院大学が一二〇年という長い歴史を刻む中には様々な苦難があつたことと思われまふ。この長い歴史を刻むことを可能にしたのは、一貫した教育理念を掲げ、多くの方にその理念を共有する中で、優秀な人材を数多く輩出してきたからに他なりません。

私も少しでも長い歴史を刻めるよう理念を心に刻んで参りたいと思います。最後になりましたが、この度はこのような機会を頂き誠にありがとうございます。また皆様のご健勝を心よりお祈りしております。

天野利武初代学長との思い出(3)

学生時代の思い出と天野先生

立花 元彦(第一期生)



追手門学院大学の卒業生の皆様、学院関係者の皆様、校友会四〇周年おめでとう御座います。大学創設当時の初代天野学長との思い出を投稿せよとの事でPCをたいております。

マレーシア、タイランドに一九七五年から現在に至るまで住んでおります関係で校友会活動には全く参加する機会がありません。その私に投稿依頼が来たのは、なぜなのでしょう？噂によりますと初代校友会の委員長、だったからだとか！創設当時の学院は、学生も一年生だけで人数も少なく、また、教授、助教授、講師、助手の先生方も若く、先生と学生といった関係ではなく兄弟のような関係でお付き合いを頂きました。初代の天野学長は、少しお年が離れていましたが、先輩が無く大学生生活不慣れな一期

生の私達の無茶なお願い、相談にも快くお時間を割いて頂きました。

一九六六年の秋の事でした、誰からともなく文化祭(將軍山祭の前に一回開催)を開催したいと言い出し、学長と予算のお話に伺った時、快く三十万円を出して頂きました。当然少ない予算ですが、当時の学生はやる気満々でその少ない予算を各部に公平に配分し足りない部分は、各人が小遣いの中から出し、頭と体を使つて成功させました。学長は、その成功に我々と共に大変喜んで頂きました。学長は、いつも学長室の中に居られるのではなく学院内を巡回されて我々に気軽に声を掛けておられました。一九六〇年代は学生運動が盛んな時期、学院内にはそのような動きは全く無く逆に、他校より活動家が扇

動に来るとの噂が学院内に広まり、体育会系の部が主導権を取り学生が体育館内に寝泊りをして学院を守りました。その時も学長は、我々の体育館内に寝泊りする希望を快く聞き入れて下さいました。

各学部は、目崎経済学部長、平沢文学部長と当時の第一線で活躍の先生を配し、大学の中でも創設時からコンピュータの導入をした大学は、多くは無かったと記憶しています。

ユニークな先生では、英語の担当がマクルーハンで有名な竹村健一氏、文学部にはノーベル文学賞受賞のタゴール氏の親族のS・Kタゴール先生がおられ、いつも外車を運転されていました。これも天野学長の教育に対する考え方、人脈の豊富な所と後日聞きました。紙面が許せば幾らでも書く事がありますが、それも許されないうです。最後になりますが、校友会の今後のご発展と会員の皆様方のご健康をお祈り申し上げます。

天野利武初代学長との思い出(4)

天野利武学長公式訪印回想

第五回交換留学生 潮 俊次(第八期生)

ブーゲンビリアの赤い花が咲くグジャラート大学学長の公邸の庭は、鳥がさえずりリスが樹間を往来し、まことに穏やかな雰囲気になっていました。

一九七四年十二月下旬の夕刻、天野利武追手門学院大学学長の交換留学制度制定五周年の公式訪問レセプションがガーデンパーティーの形式で開催された。

主催者側の数名の訪印歓迎スピーチに続き舞台上に立たれた天野先生は流暢な英語で過去五年間の留学生交換に関する互いの労をねぎらい感謝の念を述べられた。

戦後およそ三十年がたつていたが天野学長はこの縁に鑑み、来る二十一世紀に向けていける架け橋(留学生)を育もうと締めくくるのである。

三十余年たった現在、天野先生の期待に沿えず架け橋の任を果たしていない私

だが、インドの経済急成長に驚きをもって眺める今の日本の風潮(二桁掛け算九教育の特集等)はどこか滑稽に映る。"舐めたらアカン"と言いたい。識字率は六〇パーセント、インフラ整備の遅れなど後進国呼ばわりするが、大学学士数・海外留学生数などマンパワーの育成は当時から大変盛んであった。その成果が今現れ始めている。ただであり、今後も持続し、更に進化すると見ている。

天野先生はこれら全ての流れを看破されてスピーチされたように想われる。



「追手門学院大学サテライトオフィス 大手前」が、三月六日プレオープン

追手門学院創立百二十周年記念事業の一環として、本年三月六日より追手門学院の発祥の地である大手前キャンパスの一角にサテライトオフィス大手前を開設いたしました。

この施設は、卒業生に対する就業支援や大阪市内で就職活動を行う学生を支援する拠点として、新たなサービスを展開します。

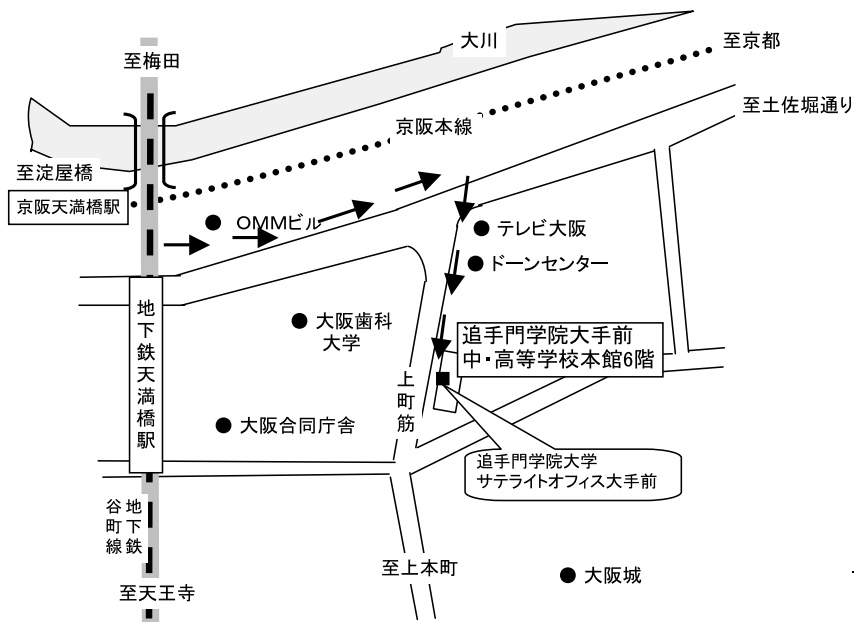
追手門学院大学の在学生および卒業生（卒業後三年

以内）であれば、①専門の相談員による就職相談、②企業情報や採用情報の提供、③就職先の紹介・斡旋、④各種証明書の交付などのサービスを受けることができます。

大阪城を一望できるオフィスですので、お気軽にお立ち寄りください。

詳しい内容は、大学のホームページ（四月以降）に掲載いたします。

追手門学院 大阪城スクエア 創立120周年記念 追手門学院大学サテライトオフィス大手前



追手門学院大学サテライトオフィス大手前

〒540-0008
大阪市中央区大手前1丁目3番20号
追手門学院大手前中・高等学校本館6階 大阪城スクエア内
TEL06-6942-7700 FAX06-6942-7730
E-mail Satellite@office.otemon.ac.jp
最寄り駅：地下鉄谷町線天満橋駅 1番出口
京阪電車天満橋駅 東改札出口
OMMビル方面徒歩7分

追手門学院大学附属図書館 「オーストラリア・ライブラリー」開設

追手門学院大学附属図書館「オーストラリア・ライブラリー」は、日本国内唯一の、オーストラリア専門の図書室です。



写真は二〇〇七年十月十四日、目録贈呈式でマクレレン豪大使と鈴木学長。

二〇〇七年度にオーストラリア政府から寄贈を受けた「豪日交流基金寄贈書」（内訳 洋書 約一〇、〇〇〇冊、和書 約三、〇〇〇冊、視聴覚資料ほか 約二、〇〇〇点）を中核に、本学オーストラリア研究所が収集してきた蔵書約五、〇〇〇冊を加えて、二〇〇七年十月、附属図書館内に開設しました。「オーストラリア・ライブラリー」には、これらオーストラリア関係図書等約二〇、〇〇〇冊のうち約一五、〇〇〇冊を閲覧に供しています。

二〇〇八年二月十四日には、「オーストラリア・ライブラリー」を一般の方にも公開し、広くサービスの提供に努めています。所蔵資料は、本学附属図書館オンライン蔵書目録（OPAC）で検索できます。OPACは図書館ホームページとおしてインターネットにも公開しています。

支部報告

九州支部



(後列) 美濃岡、山崎、吉田、
宮野、岩崎、牧、清原、川原、
大平、亀田
(前列) 田中、平野、重松、国
兼、天野

六月二十三日 (土曜日)
に、北九州市の小倉ステーションホテルの『祇園』で九州支部総会を開催いたしました。大学からは国際教養学部、重松学部長と吉田法人事務局長、校友会からは平野会長と美濃岡常務理事が参加下さいました。

今年の総会は、年度末の二月から六月に変更して参加者の増加をはかりました。

が、決算総会の時期にあたり残念ながら参加できない方もおられ、会の日時を決める難しさを経験しました。総会は大学の現状と変化、さらには今後の方向性など、重松先生や吉田次長からお話をいただき、その後は若干遅れて???参加された平野会長より校友会館の話などがあり、懇親会となりました。九州支部総会は参加メンバーがほぼ固定しており、例年どおりの顔合わせで近況報告を行いながら、会話の糸口をみつければ、話題が進んでいきました。中でも盛り上がったのは大学の話です。参加者は過去の時代が異なりますが、自分の学生時代に合せて話を膨らませるので、大学のイメージが異なり話の組み合わせが悪くなります。

を約束して閉会となり二次会へと続きました。来年は六月の中旬、大分の予定です。(九校会だより(平成十九年八月発行)より抜粋掲載。なお、この記事は、昨年度支部総会の報告です。)

お願い
住所あるいは住所表示の変更、勤務先の変更、ご結婚による氏名の変更などは、ハガキで校友会事務局までご連絡をお願いします。

なお、ご連絡の際、会報をお送りしている封筒の宛名の下に記載してある校友会会員番号をお書き添えください。

会員数動向

平成二十年三月一日現在の会員の動向をお知らせします。別表一のとおり、本会の会員は正会員だけで四万人を超えました。

支部は、東京、東海、中国、九州、追手門学院にあり、別表二のとおり、卒業生は全国各地に着実に増加しています。

支部の設立!

都道府県別会員数(別表二)をご覧になり、支部あるいは分会を設立したいとお考えの際は、ご協力させていただきますので、是非、校友会事務局(電話 〇七二一六四三三六三三五)までご連絡下さい。

別表一

正会員数	四〇七二二名
物故永眠会員数	一九九名
住所不明会員数	七六一八名
住所判明会員数	三二九〇五名

別表二

都道府県別

北海道	二三名	滋賀県	一九四〇名
青森県	五名	京都府	三二二八名
岩手県	二名	大阪府	一四四〇五名
宮城県	六名	兵庫県	六三三九名
秋田県	六名	奈良県	一七三三名
山形県	五名	和歌山県	六七八名
福島県	一〇名	鳥取県	二〇一名
茨城県	一名	島根県	一一二名
栃木県	九名	岡山県	五一五名
群馬県	一〇名	広島県	三七八名
埼玉県	五七名	山口県	一四七名
千葉県	九六名	徳島県	二四九名
東京都	一六六名	香川県	二二九名
神奈川県	二二〇名	愛媛県	二二〇名
新潟県	二七名	高知県	一三四名
富山県	九六名	福岡県	一五八名
石川県	一四一名	佐賀県	二八名
福井県	二〇九名	長崎県	二九名
山梨県	四名	熊本県	二五名
長野県	四九名	大分県	四〇名
岐阜県	五七名	宮崎県	二三名
静岡県	一三二名	鹿児島県	四三名
愛知県	一九八名	沖縄県	二〇名
三重県	二七五名	不明	六二名

学院創立一二〇周年記念事業

総合募金のお願い

創立一二〇周年記念事業事務局

大学校友会会員の皆様方には、平素は学院(大学)の教育事業発展のためにご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

■ 2008年 学院創立120周年記念事業行事予定一覧表

行事	予定月日	場所
中・高キャンパス竣工式&祝賀会	2008年3月29日	中・高新校舎及び食堂
大手前中・高、学院施設竣工式&祝賀会	2008年4月26日	大手前中・高新校舎 追手門学院 大阪城スクエア
創立120周年特別連続講演会	2008年5月～	追手門学院 大阪城スクエア
創立120周年記念 第2回映画試写会協賛企画	2008年5月	大阪厚生年金会館 芸術ホール
「大阪城プロジェクト」生き物・歴史探検隊	2008年5月11日	大阪城公園、大手前中・高
創立120周年記念追手門学院文化芸術祭	2008年6月13日	大手前中・高 体育館及び 追手門学院 大阪城スクエア
大学オープンキャンパス創立120周年記念事業コーナー(展示:抽選など)	(計5回実施)	大学食堂
将軍山会館竣工式&祝賀会	2008年6月28日	大学
第2回「学院の歴史と教育理念」共同研究シンポジウム開催	2008年6月28日	大学5号館 視聴覚教室
「大阪城プロジェクト」写真展	2008年7月14日～18日 22日～25日	朝日新聞社 (アサコムホール)
「オール追手門展～幼稚園から大学院まで、追手門のすべてを一堂に～」	2008年7月18日～20日	毎日新聞本社 (オーバルホール)
天神祭 第5回「追手門学院奉拝船」出船	2008年7月25日	大川
第4回おうてもん教育セミナー	2008年8月～9月	追手門学院 大阪城スクエア
「大阪城プロジェクト」シンポジウム	2008年9月6日	小学校110周年記念ホール
ホームカミングデー 第4回歴史写真パネル展(大学編)	2008年11月3日	大学食堂
創立120周年記念式典	2008年11月7日	大阪城ホール
小学校キャンパス西館竣工式&祝賀会	2009年1月30日 予定	小学校他
第5回おうてもん教育セミナー	2009年2～3月	追手門学院 大阪城スクエア

創立120周年記念事業事務局
TEL.072-641-9720
FAX.072-641-9538
URL:<http://www.otemon.jp/120shunen>

追手門学院は本年創立一二〇周年を迎えます。創立一二〇周年記念事業としては、大学におきましては中央棟の建設並びに大教室の不足の解消とIT設備の充実を目指した六号館を新築いたしました。

また、大学校友会より多額な団体募金をいただきました。その寄付金を資金にして将軍山会館(大学校友会館)の新館建設を着手し、六月には竣工式を挙げる予定です。

これらの新しい建物に付随する教育施設としてのIT設備や機器備品の設置、教具の更新を図っていかねばなりません。すでに関係各位から貴重なご芳志を頂戴しておりますこと、心より御礼申し上げます。

総合募金の実績額は本年二月現在で七億二〇〇万円が集まりましたが、目標額の一二億円まで達成するには、皆様方の個人募金のお力添えが必要となって参ります。

そこで学院創立一二〇周年を迎えるにあたりまして、財政基盤の確立が求められ

ており、周年事業の成功と学院(大学)のさらなる発展のために、校友会員の皆様方におかれましては昨年の九月発行の会報に同封させていただきました募金要項を再度ご覧になっていただき、寄付金へのご理解ご協力を重ねてお願いを申し上げます。次第です。ご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

編集後記

恩師が亡った。春を惜んで惜春なら、人を惜めば惜人か。
惜まれる人になりたいが長生きもしたい。
げに欲は尽きぬもの、せめて人の為にと。(潤)

【訂正とお詫び】

一ページ五段目、オープンキャンパス開催日の六月二十二日及び七月二十日の曜日に間違いがありました。火曜日ではなく、正しくは日曜日です。左記のとおり訂正しお詫びいたします。

オープンキャンパス 開催予定

今年も開催されるオープンキャンパスの日程が、次のとおり決まりました。

リニューアルしたキャンパスにぜひご来校下さい。

六月二十二日	(日)
七月二十日	(日)
八月二日	(土)
八月三十日	(土)
九月二十一日	(日)
十月十二日	(日)

*時間などの詳細はホームページまたは電話で確認して下さい。

なお、十月十二日は入試直前相談会です。